



佐藤 直樹さん

Naoki Satou

(広瀬区)

さとう なおき / 甲佐町地域
おこし協力隊として、宮内地区を拠点として精力的に活動。地域に密着して、本町のよりよい発展を目指す。

住民と共に楽しむ地域活動で 本町の発展を目指す

「甲佐町の良さを一言で表すなら、川の音が聞こえる町」と語るのは、甲佐町地域おこし協力隊の佐藤直樹さん（広瀬区）。

地域おこし協力隊とは、地域の活性化を目的として、都市住民など地域外の人材を地域の担い手として受け入れ、農林漁業の応援や住民の生活支援などの地域協力活動を行うもの。佐藤さんは、平成24年度から隊員として宮内地区を中心に活動を続けている。

本町へ来た当初は、「自然豊かで、川の音を楽しむような豊かさを持った人々が暮らす町というイメージがあったが、その良さがなかなか外部に伝わっていないことを感じたと振り返る。そこで、インターネットを活用しながら地域の活動団体の支援を行い、「甲佐町・宮内地区」の名前や暮らしを知ってもらうことに注入。地域交流の機会とし

て、旧宮内小学校を活用し開催した「グラウンドバザー」では、1日で約1,000人の来場者を数えた。本年度の重点的な活動として、「空き家を活用した移住定住の促進」を目標に掲げ、「20〜30代の子育て世代がもっと増えてほしい。そのためには、地域経済振興とセツトである必要がある」と話す。また、熊本地震によって被災した家屋や、九州豪雨によって発生した流木や岩などの片付けを手伝い、宮内地区の復旧・復興を視野に入れ、地域団体と連携し、地域のコミュニケーション活動も継続して行うなど、佐藤さんの忙しい日々は続く。

「豊かな自然を舞台に、地域の知恵と若者のアイデアや行動力が掛け算されるような取り組みを重ねていきたい。」と語る佐藤さん。「耕作放棄地や空き家の増加、地域コミュニティの衰退など課題もたくさんあるが、少しずつ前へ進めるように協力を目標」と本町の未来の発展を目指す。

広報 こうさ

2017年（平成29年）6月号
通巻575号